

知 事 意 見 （ 要 綱 ）

平成 27 年 2 月 20 日

水島港唐船線バイパス事業に係る環境影響評価実施計画書について、関係市長及び関係地域住民並びに岡山県環境影響評価技術審査委員会の意見を勘案し、慎重に検討した結果、意見は次のとおりであるので、環境影響評価準備書に反映させるとともに、調査、予測及び評価の結果に基づき、当該事業に係る環境影響をできる限り回避し、又は低減するなど環境保全上必要な措置について特段の配慮を願いたい。

記

1 事業計画について

- (1) 事業特性及び地域特性は、環境影響評価を実施する上で重要な情報であるため、準備書では、国の事業を含めた周辺地域の道路交通網の整備計画や交通量予測も明らかにするとともに、当事業の位置づけを記載すること。
- (2) 工事計画は、調査及び予測地点並びに予測時期の設定等に重要な情報であるため、準備書には、具体的な工期や施工台数などに関する情報も含め、可能な限り具体的かつ詳細に記載すること。
- (3) 工事計画の具体化に当たっては、環境への影響が最大限回避・低減されるよう十分検討を行うこと。

なお、掘削土の当事業実施区域内での利用は、運搬車両の走行に伴う環境負荷の低減が図られることから、施工順序については、掘削土の当事業実施区域内での利用の観点からも十分検討し、その検討結果を準備書で明らかにすること。

2 調査、予測及び評価の手法について

調査及び予測地点、環境影響評価項目及び手法については、工事計画の具体化及び事業実施区域周辺の状態の変化に応じ見直しを行い、適切に調査、予測及び評価を行うこと。

3 環境保全措置について

工事は長期間に及ぶと予想されるため、資材等運搬車両等の台数削減、低公害化及び運行管理はもとより、影響を及ぼす期間にも着目した上で環境保全対策を立案すること。

4 指摘事項について

別掲の指摘事項についてそれぞれ検討し、適切に対処すること。

指 摘 事 項

1 環境の自然的構成要素の良好な状態の保持

(1) 大気質

調査は、現地の状況を把握できる地点で実施する必要があるため、玉島笠岡道路の開通状況や予測地点の位置等も踏まえた上で、選定した調査地点が、現地の状況の把握並びに予測及び評価を行う上での確であるか検証し、検証結果を準備書に記載するとともに、必要に応じ調査地点を追加すること。

(2) 振動

供用後の自動車の走行に係る振動の環境保全目標に要請限度を選定しているが、感覚閾値等の採用も検討すること。

(3) 低周波音

新池橋完成後、資材等運搬車両が長期間にわたり新池橋を走行すると考えられるため、資材等運搬車両の通行に伴う環境影響評価項目に低周波音を選定する必要があるか検討し、検討結果を準備書に記載するとともに、選定する必要がある場合には、予測及び評価を行うこと。

(4) 水質

工事の実施に伴う濁水の発生を防ぐため、仮設沈砂池の設置に加え、雨季の裸地形成を可能な限り回避するなどの対策を検討すること。

2 生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全

(1) 動物

① 調査は生息状況の把握に適した時期に実施する必要があるため、陸上昆虫類・クモ類の調査期間は、最も種類が多く確認される初夏を追加すること。

② 道路の存在により動物の移動障害が考えられるため、調査結果を踏まえ、動物の移動経路の確保も含めた環境保全措置を検討すること。

(2) 植物

法面等の緑化計画については、地域の生態系に配慮した早期の緑化を図る計画とし、準備書に記載すること。

3 地域の景観の確保及び人と自然との豊かな触れ合いの場の確保

(1) 文化財・天然記念物

事業実施区域には、縄文時代の標識遺跡として極めて重要な中津貝塚や夕崎1号墳が存在しているため、県教育委員会と保存方法について協議を行うこと。

また、工事中に新たに埋蔵文化財が発見されることも考えられるため、事前に十分な確認調査を実施した上で、県教育委員会と協議し慎重に対応すること。